

兵庫・倉見遺跡



(出石・城崎)

遺跡及び木簡出土遺構の概要
遺跡の年代 平安時代～江戸時代
調査担当者 潮崎 誠
遺跡の種類 集落跡
調査期間 一九八四年(昭59)八月
発掘機関 豊岡市教育委員会
調査担当者 潮崎 誠
遺跡の年代 平安時代～江戸時代

倉見遺跡は、豊岡市南東部に位置しており、円山川の支流である小野川をのぞむ北西向山裾に立地している。今回の調査は、県道香住・大谷線の拡幅に伴う工事中の立会調査で、県教育委員会と市教育委員会の両者があたつたものである。

木簡は、工事用排水のため水田に設けられた集水坑の上げ土から単独で発見されたもので、これに伴うよ

(潮崎 誠)

166×18×2 051

工事区域の東側に近接した畠地からは平安時代以後と見られる土器片が採集されているので、本木簡は、その付近に推定される集落跡からの流れ込みであろうと考えられる。
本遺跡周辺の歴史時代の遺跡としては、北方約1kmの香住字荒原で、ほ場整備中に人形・斎串などの木製品が出土している。また、さらに北側の三宅地区には、白鳳時代の瓦・鷲尾片を出土する薬琳寺跡が知られている。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「御はこ□壱古」